

諸率の算出に用いた人口

都道府県・男女別人口（日本人人口）

5歳階級・男女別人口（日本人人口）

都道府県	総数	男	女
全 国	126 139 000	61 620 000	64 520 000
北海道	5 645 000	2 693 000	2 952 000
青森	1 458 000	693 000	765 000
岩手	1 396 000	670 000	726 000
宮城	2 360 000	1 152 000	1 208 000
秋田	1 164 000	552 000	612 000
山形	1 224 000	592 000	632 000
福島	2 103 000	1 026 000	1 077 000
茨城	2 953 000	1 470 000	1 483 000
栃木	1 986 000	986 000	1 000 000
群馬	2 000 000	985 000	1 014 000
埼玉県	6 952 000	3 506 000	3 446 000
千葉県	5 955 000	2 988 000	2 967 000
東京都	12 059 000	6 000 000	6 058 000
神奈川県	8 570 000	4 335 000	4 235 000
新潟	2 448 000	1 188 000	1 260 000
富山	1 109 000	534 000	575 000
石川	1 173 000	568 000	606 000
福井	817 000	397 000	420 000
山梨	873 000	429 000	445 000
長野	2 179 000	1 063 000	1 115 000
岐阜	2 078 000	1 008 000	1 069 000
静岡県	3 726 000	1 835 000	1 891 000
愛知県	7 028 000	3 515 000	3 512 000
三重	1 833 000	888 000	945 000
滋賀	1 345 000	663 000	682 000
京都府	2 597 000	1 251 000	1 346 000
大阪府	8 652 000	4 214 000	4 438 000
兵庫県	5 504 000	2 642 000	2 862 000
奈良	1 428 000	682 000	746 000
和歌山	1 051 000	497 000	554 000
鳥取	607 000	291 000	316 000
島根	749 000	358 000	391 000
岡山	1 940 000	930 000	1 009 000
広島	2 854 000	1 379 000	1 475 000
山口	1 500 000	709 000	791 000
徳島	813 000	387 000	427 000
香川	1 014 000	487 000	527 000
愛媛	1 477 000	697 000	780 000
高知	804 000	379 000	425 000
福岡	5 018 000	2 385 000	2 633 000
佐賀	869 000	411 000	459 000
長崎	1 496 000	702 000	793 000
熊本	1 849 000	873 000	977 000
大分	1 211 000	571 000	640 000
宮崎	1 161 000	547 000	614 000
鹿児島	1 770 000	830 000	940 000
沖縄	1 342 000	659 000	683 000

資料：「平成15年10月1日現在推計人口」（総務省統計局）

年齢階級	総数	男	女
総 数	126 139 000	61 620 000	64 520 000
0～4歳	5 744 000	2 947 000	2 797 000
5～9	5 936 000	3 039 000	2 897 000
10～14	6 073 000	3 112 000	2 961 000
15～19	6 919 000	3 551 000	3 368 000
20～24	7 653 000	3 932 000	3 721 000
25～29	8 906 000	4 539 000	4 367 000
30～34	9 502 000	4 810 000	4 692 000
35～39	8 302 000	4 190 000	4 111 000
40～44	7 731 000	3 893 000	3 838 000
45～49	7 835 000	3 932 000	3 903 000
50～54	9 938 000	4 951 000	4 988 000
55～59	9 114 000	4 495 000	4 619 000
60～64	8 262 000	4 009 000	4 254 000
65～69	7 374 000	3 496 000	3 878 000
70～74	6 338 000	2 889 000	3 449 000
75～79	4 881 000	2 054 000	2 826 000
80～84	3 009 000	1 034 000	1 975 000
85～89	1 694 000	521 000	1 173 000
90歳以上	929 000	226 000	702 000

資料：「平成15年10月1日現在推計人口」（総務省統計局）の資料に基づき、厚生労働省で算出したものである。

14大都市・男女別人口（総人口）

14大都市（再掲）	総数	男	女
東京都区部	8 340 000	4 141 000	4 200 000
札幌市	1 859 000	883 000	976 000
仙台市	1 023 000	500 000	523 000
さいたま市	1 056 000	532 000	524 000
千葉市	913 000	459 000	454 000
横浜市	3 527 000	1 781 000	1 747 000
川崎市	1 294 000	670 000	623 000
名古屋市	2 193 000	1 089 000	1 104 000
京都市	1 466 000	701 000	765 000
大阪市	2 627 000	1 284 000	1 343 000
神戸市	1 516 000	721 000	794 000
広島市	1 138 000	552 000	586 000
北九州市	1 003 000	474 000	530 000
福岡市	1 380 000	664 000	716 000

資料：各指定都市及び東京都が推計した平成15年10月1日現在の総人口である。

年齢調整死亡率算出に使用した昭和60年モデル人口

年齢階級	基準人口	年齢階級	基準人口
0～4歳	8 180 000	50～54歳	7 616 000
5～9	8 338 000	55～59	6 581 000
10～14	8 497 000	60～64	5 546 000
15～19	8 655 000	65～69	4 511 000
20～24	8 814 000	70～74	3 476 000
25～29	8 972 000	75～79	2 441 000
30～34	9 130 000	80～84	1 406 000
35～39	9 289 000	85歳以上	784 000
40～44	9 400 000		
45～49	8 651 000	総 数	120 287 000

注：昭和60年国勢調査人口をベビーブーム等の極端な増減を補正し四捨五入によって1000人単位として作成した。

厚生労働省ホームページ掲載表一覧

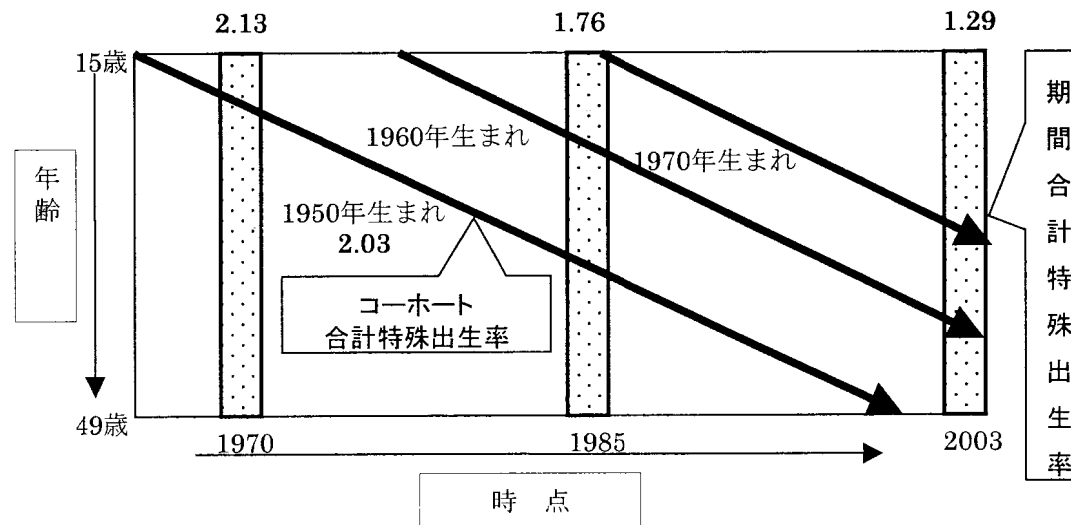
人口動態統計年報 主要統計表（最新データ、年次推移）

総	覧		
第	1	表	人口動態総覧
第	2	表-1	人口動態総覧の年次推移
第	2	表-2	人口動態総覧（率）の年次推移
第	3	表-1	人口動態総覧，都道府県（14大都市再掲）別
第	3	表-2	人口動態総覧（率），都道府県（14大都市再掲）別
出	生		
第	1	表-1	母の年齢階級別にみた出生数の年次推移
第	1	表-2	合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）
第	2	表-1	出生順位別にみた出生数の年次推移
第	2	表-2	合計特殊出生率の年次推移（出生順位別内訳）
第	3	表	出生順位別にみた母の平均年齢の年次推移
第	4	表	性別にみた出生時の身長別出生数・構成割合
第	5	表	性別にみた出生時の体重別出生数・構成割合
第	6	表	父母の国籍別にみた出生数の年次推移
第	7	表	単産-複産（複産の種類・出生-死産の組み合わせ）別分娩件数
第	8	表	都道府県別にみた単産-複産（複産の種類）別分娩件数
死	亡		
第	1	表	性別にみた死因順位（第10位まで）別死亡数・死亡率（人口10万対）・構成割合
第	2	表	死因順位（第10位まで）別にみた年齢階級別死亡数・死亡率（人口10万対）
第	3	表	死因簡単分類別にみた性別死亡数・死亡率（人口10万対）
第	4	表	性・年齢階級別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移
第	5	表	死亡の場所別にみた死亡数・構成割合の年次推移
第	6	表	死亡の場所別にみた都道府県（14大都市再掲）別死亡数・構成割合
第	7	表	死因順位（第5位まで）別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移
第	8	表	死因順位（第5位まで）別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率（人口10万対） ・構成割合
第	9	表	年齢階級別にみた選択死因分類・性別死亡数
第	10	表	年齢階級別にみた選択死因分類・性別死亡率（人口10万対）
第	11	表	死因年次推移分類別にみた性別死亡数の年次推移
第	12	表	死因年次推移分類別にみた性別死亡率（人口10万対）の年次推移
第	13	表	死因年次推移分類別にみた性別年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移
第	14	表	主な死因別にみた都道府県（14大都市再掲）別死亡数・死亡率（人口10万対）
第	15	表	悪性新生物の主な部位別にみた性別死亡数の年次推移
第	16	表	悪性新生物の主な部位別にみた性別死亡率（人口10万対）の年次推移
第	17	表	悪性新生物の主な部位別にみた性別年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移
第	18	表	家庭内における主な不慮の事故の種類別にみた年齢別死亡数・構成割合
死	産		
第	1	表	妊娠期間別にみた自然-人工別死産数・構成割合
婚	姻		
第	1	表	初婚-再婚別・夫妻の組み合わせ別にみた婚姻件数の年次推移
第	2	表	夫妻の国籍別にみた婚姻件数の年次推移
第	3	表	夫妻の年齢階級別にみた初婚件数・初婚率（人口千対）の年次推移
第	4	表	夫妻の平均婚姻年齢の年次推移
第	5	表	都道府県別にみた夫妻の平均初婚年齢の年次推移
第	6	表	初婚夫妻の年齢差別にみた婚姻件数・構成割合の年次推移
離	婚		
第	1	表	同居期間別にみた離婚件数・平均同居期間の年次推移
第	2	表	夫妻の国籍別にみた離婚件数の年次推移
第	3	表	別居したときの夫妻の年齢階級別にみた離婚件数・構成割合
第	4	表	同居期間別にみた別居したときの夫妻の年齢階級別離婚件数・構成割合
第	5	表	親権を行わなければならない子の有無別離婚件数・構成割合及び親が離婚した未成年の子の数・率の年次推移
別	表		日本における外国人の人口動態・外国における日本人の人口動態
付	表		諸率の算出に用いた人口

合計特殊出生率について

期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率について

- 合計特殊出生率には次の2つ種類がある。
 - A 「期間」合計特殊出生率 … ある期間の出生状況に着目したもので、その時点における各年代(15~49歳)の女性の出生率を合計したもの。女子人口の年齢構成の違いを除いた出生率として、年次比較、国際比較、地域比較に用いられている。
 - B 「コーホート」合計特殊出生率 … ある世代の出生状況に着目したもので、同一年生まれ(コーホート)の女性の出生率を過去から積み上げたもの
- 実際に「1人の女性が一生の間に生む子どもの数」はBのコーホート合計特殊出生率であるが、それに相当するものとして一般に用いられているのはAの期間合計特殊出生率である。これは、各年齢の出生率が世代(コーホート)によらず同じであれば、この二つの「合計特殊出生率」は同じ値になるからである。
- 晩婚化・晩産化が進行している状況では、各世代の結婚や出産の行動に違いがあるため、すべての世代の出生率を合計している期間合計特殊出生率は、コーホート合計特殊出生率の値と異なる。



平成15年における「35～39歳」世代のこれまでのコーホート合計特殊出生率は約1.55

- 平成15年の「期間」合計特殊出生率は1.29であるが、これは、現在、晩産化の進行中であり、出産を終えた世代の高年齢時における低い出生率と、晩婚化・晩産化により出産を先送りしている世代の若年齢時の低い出生率の合計であり、実際に「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」より低く現れている。
- 年齢階級別の出生率の近年の傾向をみると、35歳以上で上昇しており、先送りした出産が行われている。このため、将来の世代の晩産化に歯止めがかかると、「期間」合計特殊出生率の上昇が見込まれると考えられる。
- 「コーホート」合計特殊出生率はその世代が50歳になるまで実績は得られないが、例えば、平成15年における「35～39歳」の世代（昭和39～43年（1964～1968年）生まれ）について、これまでの出生率の合計をごく粗く計算すると約1.55であり、この世代の「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」は少なくともこの水準を上回るものと見込まれる。

期間合計特殊出生率とコーホート 合計特殊出生率

	昭和48年 (1973)	53 (1978)	58 (1983)	63 (1988)	平成5年 (1993)	10 (1998)	15 (2003)
総数 (期間合計特殊出生率)	2.14	1.79	1.80	1.66	1.46	1.38	1.29
15～19歳	0.0238	0.0173	0.0223	0.0187	0.0183	0.0225	0.0280
20～24	0.5549	0.4232	0.3546	0.2618	0.2119	0.1942	0.1892
25～29	1.0299	0.9345	0.9267	0.7972	0.6283	0.5278	0.4490
30～34	0.4250	0.3411	0.4120	0.4693	0.4667	0.4732	0.4333
35～39	0.0935	0.0664	0.0760	0.0987	0.1198	0.1485	0.1678
40～44	0.0127	0.0088	0.0087	0.0103	0.0130	0.0173	0.0227
45～49	0.0006	0.0004	0.0003	0.0003	0.0003	0.0005	0.0006

注：人口動態統計(確定数)により作成。

平成15年までに得られた各世代のコーホート 合計特殊出生率(ごく粗い計算)

35～39歳の世代 *	1.55	** =	0.0223 + 0.2618 + 0.6283 + 0.4732 + 0.1678	(15～39歳まで)
40～44歳の世代 *	1.81	** =	0.0173 + 0.3546 + 0.7972 + 0.4667 + 0.1485 + 0.0227	(15～44歳まで)
45～49歳の世代 *	1.98	** =	0.0238 + 0.4232 + 0.9267 + 0.4693 + 0.1198 + 0.0173 + 0.0006	(15～49歳まで)

* 「35～39歳の世代」は、昭和39～43年生まれ、「40～44歳の世代」は、昭和34～38年生まれ、「45～49歳の世代」は、昭和29～33年生まれ。

** 各5歳階級の世代について、過去5年ごとの出生率を合計したもの。